

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校(全日制) 学校長名：松本泰幸

めざす学校像 育てたい生徒像	生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語れる学校の3つの基本姿勢のもと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 生徒に向上心を持たせたり主体的に活動させたりする場面のある授業づくりを推進するとともに、キャリア教育の一層の充実を図る。
	2 工業高校の専門性を生かした資格取得や地域貢献活動を積極的に推進することで、職業人として必要な資質・能力を育む。
	3 部活動や自主活動の振興を一層図ることで、職業人として必要な豊かな人間性を育む。

中期的な目標	○規律の中から生まれる自立心を基盤として、確かな学力の定着を図るとともに、ものづくりに関する創造性を伸ばし、自ら学び続ける力を育成する。 ○キャリア教育の充実に取り組み、希望する進路を実現するため、主体的に進路選択ができる力を育成する。 ○地域連携や地域貢献を軸に、地域とともにある学校づくりの具体化に取り組む。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	自己評価及び学校関係者評価の結果を、ホームページに掲載することで、保護者をはじめ広く公表していく。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 5 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	授業への取組姿勢を前向きにし、活動内容や成果を発表する機会を増やすとともに、就職に関する複数応募制を見通したキャリア教育を充実させることで、早い段階から就職・進学に対する意識を強くする必要がある。	生徒に向上心を持たせたり主体的に活動させたりする場面のある授業づくりを推進するとともに、インターンシップや進学説明会等により進路意識を高められているか。	一人一台PCを活用し、教員の効果的な指導法や生徒の主体的な活動に資する授業研究を実施する。 生徒が発表や議論を行う授業を実施する。 生徒の進路選択につながる進路説明会を実施する。	授業研究を30回程度 課題研究等の発表会(科別、クラス別及び全体)を12回程度 進路説明会(科別、学年別)10回程度	○授業研究は1学期に7回、2学期の分散登校時には同時双方向の研究を各科各教科で行った。 ○課題研究の発表会は学校全体はコロナ禍の影響のためできなかったが、科単位で計11回実施。 ○就職・進学に関する説明会は、オンラインで行ったものも含めて科別、学年別で計18回行った。	A	○生徒の一人一台PCの普段からの家庭への持ち帰りを認めているため、今後更にICTを活用した授業及び家庭学習での利活用等の促進を図る。 ○引き続き企業説明会、インターンシップ等の取組とともに、増えつつある進学希望者のための説明会も推進し、生徒のキャリア教育の充実を図る。
2	専門的技能の習得に効果のある資格取得や工業高校の専門性を生かした地域貢献活動等の取組をとおして、職業人として必要な資質・能力を育む必要がある。	和工スタンダードを活用して資格取得率を高め、地域貢献活動にも取り組むことで、生徒の知識・技能を向上させているか。	和工スタンダードを活用して資格試験等の合格者数・合格率を向上させる。 ジュニアマイスターの受賞人数を増加させる。 小学校等への出前授業や地域貢献の取組を推進する。	資格試験等の合格者数・合格率を延べ1000名程度・60%程度 ジュニアマイスター受賞人数50名程度 出前授業等の取組10回程度	○資格試験等の合格者数・合格率は904名合格、57.3%の合格率であった。 ○ジュニアマイスター受賞人数は27名(昨年度44名)、内ゴール드가7名、特別表彰が1名。 ○地域貢献活動をクラブ等で8回実施した。	B	○ジュニアマイスターの受賞者は昨年度に比べて減少した。引き続き和工スタンダードを広く活用、ブラッシュアップして、一層の向上を目指す。 ○本年度もコロナ禍の影響で地域貢献活動を制限したが、引き続き他校種との連携を強化しつつ、本校の特色を生かした取組を推進する。
3	全国高校総体や近畿大会等に多くの生徒を出場させている実績を生かし、部活動と学習活動の両立を図りながらより高いレベルの目標達成を目指すことで、豊かな人間性を育む必要がある。	競技力と人間力をバランス良く向上させる取組を推進するとともに、全職員が一体となって生徒指導に取り組んでいるか。	通学マナー、身だしなみ、ネット利用マナー等、規範意識の向上に向けた指導を徹底する。 効果的な練習方法の研修や強化会等に積極的に参加し、大会やコンクール等における成果を充実させる。	街頭指導を月2回、身だしなみ指導を学期1回程度、ネットパトロールでの指摘数が年間80件程度以内 県代表に相当する人数50人程度	○街頭指導は月2回、身だしなみ指導は各学年3回。ネットパトロールの指導数は48件(昨年度112件)。 ○県代表や全国大会出場、全国的なコンクール等の入賞者は5クラブのべ18名であった。ヨット部が全国入賞した。	B	○SNSの不適切な利用等は大幅に減少したが、服装・頭髪等の乱れはあるので、さらに職員が一丸となって組織的に指導に当たる必要がある。 ○部活動については、コロナ禍の影響で十分には活動できなかった面もあるが、引き続き学習活動との両立を図りながら取組を進めていく。

学校関係者評価
令和4年2月10日実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p><生徒評価> 肯定的評価64.9%(昨年度66.2%)。 工場見学や現場見学に行く機会については、コロナ禍の影響もあり、1年生はインターンシップを実施できず、昨年度より否定的評価が多かった。ただ、ICTを利用した授業を受ける機会は肯定的評価が20%向上した。 引き続き、積極的に発表や議論をする授業、ICTを利用した授業、現場見学を活用した授業等の推進が必要である。</p> <p><保護者評価> 肯定的評価77.3%(昨年度79.7%)。 「家庭との連絡が適切に行われている」については、昨年度より肯定的評価が10%向上した。 ただし、「学校開放週間やその他の機会を利用し、学校の内容を知ってもらう努力をしている」「地域連携が充実している」については「どちらともいえない」が30～40%程度であるので、外部への発信をさらに充実させる必要がある。</p> <p><学校運営協議会委員評価> 肯定的評価95.0%(昨年度94.2%)。 来年度は修学旅行を実現してほしいという意見、小さな改善を積み重ねることと教員の意識改革を行ってほしいという意見、「生き抜く力」を育てほしいという意見、図書館活動を大事にしてほしいという意見などをいただいた。</p>